

三浦半島断層群主部 衣笠・北武断層帯 (15221)

	長期評価	設定値	
		平均ケース	最大ケース
平均活動間隔	1900年～4900年程度	3400年	1900年
最新発生時期	6～7世紀	1409年前	1509年前
30年発生確率	ほぼ0%～3%	0.0050%	3.0%
50年発生確率	ほぼ0%～5%	0.0093%	5.0%
断層帯原点	(東端) 北緯 35°12′ 東経 139°43′ (西端) 北緯 35°16′ 東経 139°35′	—	—
活断層長さ L	約 14 km もしくはそれ以上	—	—
マグニチュード M	6.7 程度もしくはそれ以上	—	—
巨視的震源パラメータ	設定方法		
断層モデル原点	地中の上端における東端	北緯 35.198° 東経 139.788°	
走向 θ	長期評価の端点を結ぶ方向	N300.0°E	
傾斜角 δ	強震動評価に基づく	45°	
すべり角 γ	「右横ずれ断層」	180°	
断層モデル上端深さ	微小地震の発生と地震基盤深さを参考	3 km	
単位区間長さ L_{model}	強震動評価に基づく	28 km	
単位区間幅 W_{model}	強震動評価に基づく	18 km	
断層モデル総面積 S_{model}	強震動評価に基づく	504 km ²	
地震モーメント M_0	$M_0 = (S_{\text{model}} \times 10^{11} / 4.24)^2 \times 10^{-7}$	1.41E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.7	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7/16 \cdot M_0 / R^3$	3.0 MPa	
平均すべり量 D_{model}	$D_{\text{model}} = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.9 m	
短周期レベル A	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.28E+19 Nm/s ²	
微視的震源パラメータ		ケース 1	
全 テ ス イ ベ リ	面積 S_a 平均すべり量 D_a 実効応力 σ_a 地震モーメント M_{0a}	$S_a = \pi r^2, r = 7\pi/4 \cdot M_0 / (A \cdot R) \cdot \beta^2$ $D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$ $\sigma_{a_seg} = \sigma_a$ $M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	
第 リ 1 テ ア イ ス ベ	面積 S_{a1} 平均すべり量 D_{a1} 実効応力 σ_{a1} 計算用面積	95.0 km ² 1.8 m 16.1 MPa 5.34E+18 Nm	
第 リ 2 テ ア イ ス ベ	面積 S_{a2} 平均すべり量 D_{a2} 実効応力 σ_{a2} 計算用面積	95.0 km ² 1.8 m 16.1 MPa 96 km ²	
第 リ 2 テ ア イ ス ベ	面積 S_{a2} 平均すべり量 D_{a2} 実効応力 σ_{a2} 計算用面積	— — — —	
背 景 領 域	面積 S_b 平均すべり量 D_b 実効応力 σ_b 地震モーメント M_{0b} 計算用面積	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$ $D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$ $\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$ $M_{0b} = M_0 - M_{0a}$ 2km メッシュサイズ	
		409.0 km ² 0.7 m 2.8 MPa 8.79E+18 Nm 408 km ²	

